

# 力まずベストの演技を

名古屋市で二十四日に開幕する全国高校総体(インターハイ)のフィギュアスケート競技選手権大会に、大垣日大高校二年の藤原千祥さん(こも)が二年連続出場する。県内の高校から同大会に出場するのは藤原さんのみ。「自分ができる最大の演技ができるといいな」と目標を語る。(西村理紗)

## 大垣日大高の藤原さん

藤原さんは本巣市出身。母智子さん(ちこ)が元フィギュア選手で、四つ上の姉と三つ上の兄が先に競技を始めていた。「自分も物心ついたころにはスケートリンクに立っていた」と笑顔を浮かべる。現在はフィギュアスケートクラブのインストラクターを務める智子さんから指導を受ける。

練習はほぼ毎日。県内には練習できるスケート場がないため、学校を終えると智子さんの車に乗って愛知、福井県のリンクに通う。日によって練習できる時間はまちまちだが三時間ほど打ち込むときもあるという。厳しい練習を重ねる中で「跳べなかったジャンプができるとうれしい」と、素直に競技の魅

## 総体フィギュアに出場



全国高校総体へ気合十分の藤原さん＝大垣市の大垣日大高で

力を話す。ただ、大会で同じ失敗を繰り返すこともあり「本番になると力が入って力んでしまふ。気持ちの問題で、心のどこかで『失敗しちゃう』と思うと失敗する」と精神的な課題を口にする。

インターハイでは、予選のシ

ョートプログラムで得意のテンポの速い曲で挑む。まずは冒頭に組み込んだダブルアクセル(二回転半ジャンプ)の成功を目指す。昨年の大会は緊張したといい、「あまり考えすぎないように、力を抜いていきたい」と意欲を見せた。

智子さんは「なかなかミスなく演技するのは難しいが、本人が満足できる滑りをしてほしい」と話した。